



弥生の出雲王に出会える

季刊

第61号

(2026年4月)



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

出雲弥生の森まつり2026

◆メインイベント

4月29日(水・祝)

◆オープニングイベント

出雲商業高校書道パフォーマンス

9時30分～10時



◇三谷神社獅子舞保存会

子ども獅子舞 13時～13時30分



無料 博物館探検隊

- ① 11時10分～11時40分
- ② 12時10分～12時40分

有料 古代体験フェスティバル

10時～15時

ミニ丁銀づくり

古代出雲歴史博物館

銅剣・銅鐸プラ板づくり

荒神谷博物館

古代瓦文様のうちわをつくる

八雲立つ風土記の丘

ねんど消しゴムでまが玉を作る

出雲弥生の森博物館

無料 展示ガイドサービス

常設展館長ガイド

10時10分～11時10分

● 春季企画展 11時10分～12時10分

● ギャラリー展 14時～14時30分

● 速報展 14時30分～15時

● 屋台村・喫茶コーナー

10時～15時

無料 西谷墳墓群ガイドサービス

10時～15時

おまつり当日は「よすみちゃん」も登場するよ!



◆ゴールデンウィーク

5月3日(日・祝)

無料 缶バッジづくり

- ① 10時～12時
- ② 13時～15時

5月4日(月・祝)

無料 火起こし体験

10時～12時

5月5日(火・祝)

無料 よすみちゃんクイズ 10時～11時
13時～14時

5月4日(月・祝)、5日(火・祝)

無料 キャラ探しスーパ

5月2日(土・祝)～5日(火・祝)

無料 ゴールデンウィーク限定!

よすみちゃんぬりえコーナー

日程は変更になる場合があるよ! 最新の情報は博物館ホームページを確認してね!



★ギャラリー展

「旧大社駅の年代記」

3月11日(水)～6月22日(月)

出雲市大社町には、全国でも数少ない国の重要文化財の駅舎があります。それが、2004(平成16)年7月に指定された「旧大社駅本屋」(以下、旧大社駅)です。

旧大社駅は、山陰本線の支線・大社線の終点として1912(明治45)年に開業しました。現在の駅舎は、1924(大正13)年に建て替えられた、二代目の駅舎です。1990(平成2)年に大社線が廃線となったのち、敷地とともに大社町(現・出雲市)が購入し、保存・公開されてきました。

竣工から96年が経過した2021(令和3)年2月から2025(令和7)年12月まで、老朽化対策と耐震化のため、約5年間にわたり保存修理を実施しました。そして、今年4月15日に一般公開を迎えます。

本修理では、骨組みを残して施工する半解体修理が行われました。また、修理に伴う様々な調査で、事務室の地下から初代駅舎の基礎が発見されたほか、1940(昭和15)年ごろの旧大社駅の内部

が写った写真が新たにみつかりました。これをもとに、旧大社駅をより竣工当初に近い昭和初期の姿に復原することができたのです。

今回のギャラリー展では、修理の完了と駅舎の公開を記念し、日本の鉄道の始まりから大社線の敷設、二代目駅舎の新築、最盛期から廃線、そして現代に至るまでを、時代に沿ってご紹介します。

(唐木ひかる)



保存修理の完了した旧大社駅(国重要文化財)

★速報展

「立ち会う」中山丘陵遺跡・

矢野遺跡の新発見」

5月27日(水)～9月14日(月)

伴う大規模な発掘調査が代表的です。しかし、遺跡に及ぼす影響が少なく、あるいは開発面積が狭小である等の理由で本格的な発掘調査を行わないこともあります。そういった場合、工事の際に文化財課職員が立ち会って遺跡の状況を確認する「工事立ち会」を行います。出雲市では発掘調査は年2～3件である一方、工事立会は年30件程度行っています。遺構・遺物の分布密度が薄い場所や調査範囲が狭い場合も多く、何も見つからないこともありすが、時に大きな発見もあります。今回の速報展では近年、大きな発見のあった中山丘陵遺跡・矢野遺跡の工事立会についてご紹介します。

中山丘陵遺跡は出雲市大津町の丘陵地に所在し、土器や石器などが採集されました。2020年の工事立会では土師器壺を埋納した土坑を確認しました。壺は古墳時代前期後葉から末葉頃のもので、器高40.1cm、胴部径34.8cmを測り(写真)、出土状

況から壺棺の可能性があります。

矢野遺跡は出雲市矢野町に所在し、縄文時代後期から近世に至るまで連綿と集落が営まれた遺跡です。2025年の工事立会で土器溜まりや特殊器台を確認しました。土器溜まりでは地表50～70cmの深さで、多量の弥生土器片が出土し、接合・復元すると弥生時代前期後葉頃の壺・甕を約4個体含むことが分かりました。また、土器溜まりの北側約25mの地点では、特殊器台の破片が出土しました。特殊器台は弥生時代後期葉頃の吉備(岡山県南部)を中心に製作された祭祀用の土器です。この土器の出土は矢野遺跡の広域的な交流を示す貴重な発見です。

このように調査規模の小さな工事立会でも、時に大きな発見があります。この機会にぜひ工事立会の成果をご覧ください。

(下江裕貴)



中山丘陵遺跡出土の土師器壺

★日本ジオパーク再認定

出雲市・松江市全域をエリアとする「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」は、平成29年12月に日本ジオパークに認定されました。

日本ジオパークは4年に一度、書類審査や現地調査による再認定審査を受ける必要があります。島根半島・宍道湖中海ジオパークは、今年度2回目の再認定審査を受けました。

審査の結果は、「4年間の再認定」、または、早急に解決を要する重要な問題点があると判断された場合の「2年間の条件付き再認定」のいずれかになります。

令和7年11月22日(土)から24日(月・祝)までの3日間で行われた現地調査では、日本ジオパーク委員会の現地調査員2名が当ジオパークを訪れ、日御碕や斐伊川、立久恵峽等の地質サイトや一畑薬師ビジターセンター、出雲弥生の森博物館等の活動拠点施設を巡り、事務局と意見交換を行いながら調査が行われました。

令和8年1月30日に日本ジオパーク委員会から審査結果が公表され、日本ジオパークとして「4年間の再認定」となりました。

次の4年間では、市民の皆さまや企業・団体など多くの方々との力を得ながら、ジオパーク活動の内容をさらに向上させていきます。ジオパーク活動が、ふるさとへの誇りと愛着を高め、人材育成を促進するとともに、観光や産業などの地域振興の一助になればと思います。

(植田 学志)



現地調査の様子

★文書の森をゆく②⑥
災害の記憶

今年の一月初六日、島根県東部を震源とする地震が発生しました。

近年では、平成三十年の島根県西部地震以来の大きな地震でした。

こうした災害の記録は、地域に残る古文書からも読み取ることができます。明治五(一八七二)年二月六日、浜田県浜田町(現・浜田市)の沖合を震源とした地震が起きました。地震の強さを表すマグニチュードは七から七・二と推定され、死傷者数が一一〇〇人を超える大きな地震でした。震源地は浜田ですが、その被害は広範囲におよび、現在の多伎町から大社町にかけての広い地域でも被害の記録が遺っています。

多伎町のある家に遺されていた古文書にも、当時の状況を伝える文面が残されています。「…此中ハ案内の大地震、前代未聞恐敷事ニ御座候」先日は思いもよらぬ大地震に遭い、前代未聞の恐ろしいことであつた、と知人からの手紙に書かれています。また別の手紙では「久村方東ハ不怪大損事有之由：」久村より東は甚だしい大損害になっているとのことだ、など

各地域の被害状況を伝える様子があるが、各地の被害状況と共に当時の人々がどのように震災を受け止めたのかを知ることができません。なお明治政府はこの震災に対して「窮民一時救助規則」を定め、救助金を出し、仮設の病院が建てられたり、被災者への炊き出しが行われたりしました。この地震は「浜田地震」として記録され、今に伝えられています。

災害記録は公的なものだけでなく、各地の人々が記した日常の書き物の中にたくさん遺されています。地震でどこかの山が崩れた、大雨であそこの堤防が切れて家が流されたなど、手紙や日記に書かれた記録を拾い集めることで過去の被害の全体像をとらえることができ、未来の防災に繋げていくことができます。皆さんの家にも、実は過去の災害について書かれた物が遺されているかもしれません。(荒川 英里)



大地震 前代 未聞 恐敷
鳥屋尾巧家文書(出雲市蔵)より

★展示のご案内

▼春季企画展

開催中〜5月11日(月)

「須佐神社の棟札」

●ギャラリートーク【無料】

4月5日(日)

いずれも10時から・申込不要

▼ギャラリー展

開催中〜6月22日(月)

「旧大社駅の年代記」

●ギャラリートーク【無料】

4月12日(日)、5月24日(日)、

6月21日(日)

いずれも10時から・申込不要

▼速報展

開催中〜5月25日(月)

「古志本郷遺跡第15次発掘調査」

5月27日(水)〜9月14日(月)

「立ち会う〜中山丘陵遺跡・

矢野遺跡の新発見〜」

★講座・講演会のご案内

▼職員リレー講座

①6月13日(土) 14時〜16時

「徳川家と『出雲国風土記』

―将軍が手にした写本―」

●講師 高橋 周

(博物館学芸係)

②7月4日(土) 14時〜16時

「一度は行ってみたい

島根半島・宍道湖中海

ジオパーク絶景スポット」

●講師 吉岡 正泰

(ジオパーク係)

③7月12日(日) 14時〜16時

「火山災害を乗り越えた出雲

平野周辺の縄文社会と対外交流

―島根半島・宍道湖中海

ジオパークの新たな

魅力を求めて―」

●講師

幡中 光輔
(埋蔵文化財1係)

職員リレー講座の申込について

定員 各80名/各回300円

事前申込必須(電話・メール・FAX)

●必須事項

氏名・電話番号



★館長古来夢

発掘調査では、遺跡地の地面を掘り下げ、地下に眠る過去の建物跡や生活の道具などを掘り出していく。時には時代の異なる地層が重なっていることもあり、それを掘り分けるには技術が必要となる。建物の跡や土器が見つかった場所を正確に記録する測量術、さらには写真撮影の技術も必要である。埋蔵文化財担当者は、実はアタマをフル回転させながら発掘調査に従事している。では、これらの技術はどこでどう習得するのか。

それは基本的には大学。考古学研究室や考古学専攻の先生の元で知識と技術を身につける。私の場合、研究室の教官・学生とともに京都市街南西の向日市内で古墳の測量や発掘調査に従事し学んだ。調査参加者は、各々が毎日現地集合するのではなく、調査地近くのアパートや寺のお堂を借り上げ、そこで寝食をともしながら調査に携わるのが一般的だ。

さて、当館の常設展示の目玉は、言うまでもなく西谷三号墓の出土品。渡邊貞幸先生(名誉館長)が島根大学のみならず岡山大学など他大学の学生たちをも率いて発掘

調査に当たられた。一九八三年に始まるこの発掘調査で、渡邊先生がまず直面されたのは多人数の調査部隊の「基地」つまり宿舎の探索だったという。出雲市内のお寺に電話をかけるが、なかなか色よい返事はない。ようやく承諾をいただいたのが大津町にある亀湖山西光寺だった。十年に及ぶ調査は、ずっとここを宿舎としたからこそ成し遂げられたと思う。

その西光寺が昨年末に火災に見舞われ、ご住職の長永禪教和尚が示寂された。世寿九十一歳。痛まじさに胸が塞がれる。当館二階で流れる「時を超えて」という発掘調査過程のビデオには、和尚の柔らかなお姿が映る。せめてもの縁になれば。合掌。(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館

2026年4月

〒693-0011
島根県出雲市大津町2760
(TEL) 0853-25-1841
(FAX) 0853-21-6617
(E-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp
<https://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori>

- 入館料/無料
- 開館時間 / 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 / 火曜日 (祝日の場合は翌平日) 年末年始



【正誤表】

下記のとおり、修正箇所がございますのでお知らせします。

- ・該当ページ：出雲弥生の森博物館だより第61号 2ページ目下段
速報展「立ち会う～中山丘陵遺跡・矢野遺跡の新発見～」1行目

(誤) 伴う大規模な発掘調査が代表的です。

(正) **遺跡の調査**というと、**開発等**に伴う大規模な発掘調査が代表的です。
